

クリ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	芽枯病	胴枯病	実炭疽	ゆめ促進	アブラムシ	カイガラムシ	クリガラムシ	モモノゴマダラノメイガ	ネズミ	コウモリ	クリミ	クスサ	キクイムシ	カミキリムシ	クリシギゾウムシ	
ドイツポルダーA水	無機	M1	*b	-				◎													
石灰硫黄合剤	無機	M2	*a	-	◎																
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		3	4			◎													
トップジンMペースト	ベンゾイミダゾール	1	*d		3		◎														
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1	*g		4			◎													
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		7	2			◎													
ベルコートFL	他	M7		14	2			◎													
アタックオイル	天然物由来		*a	-						◎											
アブロード水	I G R	16		7	2					幼											
フェニックスFL	ジアト	28		1	2							◎						◎			
アドマイヤー水	ネオニコチノイド	4A	劇	*n	3					◎											
モスピラン顆粒	ネオニコチノイド	4A	劇	*n	7	3				◎	◎										◎
パダンSG溶	ネイロトキシン	14	劇	*c	3							◎	◎								
アグロスリン水	ピレスロイド	3A	劇		7	5						◎									◎
アディオン乳	ピレスロイド	3A		14	*k	5						◎									◎
トレボン水	ピレスロイド	3A		14	3																◎
マブリック水20	ピレスロイド	3A	劇		7	2				ク		◎									◎
ガットサイドS乳	有機リン	1B		*f	*l	1									◎						◎
サッチューコートSセット乳	有機リン	1B		*m	*i	*h	1								◎						◎
スプラサイド乳40	有機リン	1B	劇		1	2					カ										
スミチオン水40	有機リン	1B		*g		4						◎	◎								
パーマチオン水	ピレスロイド・有機リン	3A・1B	劇	*g		4				ク											◎
トラサイドA乳	有機リン・有機リン	1B・1B		*e	*g	1						◎									◎

\*a:発芽前 \*b:果実肥大期

\*c:裂果前 \*d:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後

\*e:発芽直前 \*f:3~5月(産卵初期)

\*g:裂果前(但し収穫14日前まで) \*h:産卵時期(但し収穫60日前まで)

\*i:幼虫食入期直前~幼虫食入初期(但し収穫90日前まで) \*j:病患部削り取り直後

\*k:羽化脱出期(但し収穫14日前まで) \*l:裂果前(但し収穫90日前まで)

\*m:産卵時期(但し収穫90日前まで)

\*n:収穫7日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)

カ:カツラマルカイガラムシ ク:クリイガアブラムシ 幼:幼虫

ク

リ

## クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
胴枯病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。</li> <li>2. 草生栽培として下草管理を励行する。</li> <li>3. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。</li> <li>4. 枯死枝・病患部は削り取り、傷口、切り口にはトップジンMペーストを塗り保護する。</li> </ol>	<p>一般に若木では接木部を中心に発病する。</p>
実炭疽病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生の少ない品種を栽培する。</li> <li>2. 密植をさけ、整枝、間伐を励行する。</li> <li>3. 果実害虫を防除する。</li> </ol>	<p>丹沢、伊吹、筑波などにやすい。 成木にでやすく、幼木に少ない。 雨の多い年にやすい。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
	7月中旬～8月下旬	<p>・次の薬剤のいずれかを2～3回、イガに十分にかかるように散布する。</p> <p>バルコートフロアブル 1000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍</p>	
疫病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生地では草生栽培とする。</li> <li>2. 密植、樹の軟弱徒長とならないよう栽培管理につとめる。</li> <li>3. せん孔性害虫を防除する。</li> </ol>	<p>一般に発病部位は地表から1m内外の高さまでの幹、主枝の部分に限られる。</p>
黒色実腐病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胴枯病、実炭疽病に準じた耕種的防除を行う。</li> <li>2. 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。</li> <li>3. 草生栽培として下草管理を励行する。</li> <li>4. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。</li> </ol>	<p>東京都では近年発生が多い。 高温の年に発生しやすい傾向がある。</p>
クリイガアブラムシ (クリキナコムシ)	6月中旬～下旬	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する(イガの内部まで十分散布する)。</p> <p>アドマイヤー水和剤*<sub>a</sub> 1000倍 マブリック水和剤20 2000倍</p>	<p>岸根ほか中期晩生種に多くなる傾向がある。 *<sub>a</sub>露地栽培については発芽期から開花期を除く</p>
モモノゴマダラノメイガ	6月下旬～7月中旬・8月上旬～9月中旬(裂果前)	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックスフロアブル 4000倍</p>	<p>森早生は7月下旬、8月上旬、中旬、銀寄は8月中旬、下旬、9月上旬それぞれ散布する。</p>

## クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
キクイムシ類	3～5月 (産卵初期)	・ 次の薬剤を地際から150cmまで塗布または散布する。 ガットサイドS (乳) (塗布) 原液～1.5倍 (散布) 1.5倍	卵のふ化始めを中心に樹幹の産卵部位に薬液を噴霧する。
カミキリムシ類	裂果前	1. 被害部を見つけ捕殺する。 2. 次の薬剤を樹幹部に十分に散布する。 トラサイドA乳剤# 100～200倍	# 裂果前 (但し収穫14日前まで) 薬剤が葉にかかるとう病害を起すことがあるので注意する。
クリシギゾウムシ	9月下旬～10月 (裂果前)	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1500～3000倍 アディオン乳剤 2000倍	
クリタマバチ	発芽期 (4月中旬) または成虫発生期 (6月中旬～下旬)	1. 耐虫性品種を選ぶ。 2. 低樹高剪定栽培を励行する。 ・ 発生の多い時は、次のいずれかの薬剤を散布する。 1. 芽がゆるみ、先端が白く5mm程度のびた時期 (発芽直前)。 トラサイドA乳剤△ 200倍 2. 成虫の発生初期、一般的には品種「筑波」の雄花満開期 アディオン乳剤# 1000～2000倍 マブリック水和剤20 2000倍	耐虫性品種の中では石鎚、有磨、銀寄、出雲、岸根などは強い。 △トラサイドA乳剤による防除は低樹高剪定栽培でないとう、散布ムラから効果が劣る場合が多い。 # 羽化脱出期に散布 (但し収穫14日前まで)
その他の病害虫		ハマキムシ類、キスジキノカワガ、フシダニ	トドマツハダニ、クリ